



# 卒後2年目事例検討 ～実践につなげる事例検討～



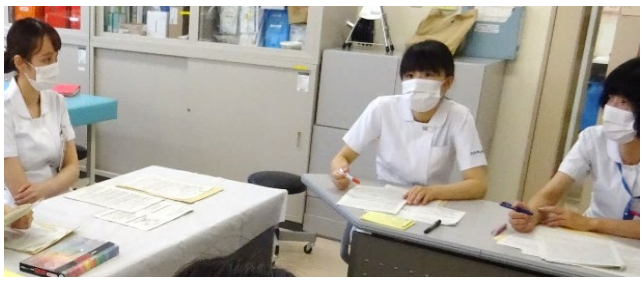
卒後2年目63名を対象に事例検討研修を行いました。グループワークで「患者との忘れられない場面」「心に残っている事例」を根拠に基づいて分析することで、自己の課題が明らかになりました。研修者は、患者像を深めるために情報を共有したり、体験したことやその時の感情を率直に表現することで、自分自身の看護観に気づくことができました。



グループワークを行うことで、新たな視点での気づきや学びを得ることができました。



患者を全人的に捉え、強みや気かりに働きかけることの重要性を再確認しました。



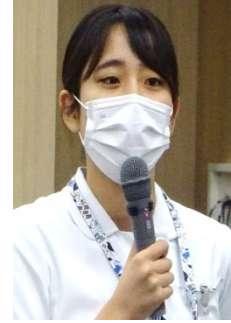
事例を共有することで、異なる部署でも共通する看護があること、看護の幅広さを学んでいました。



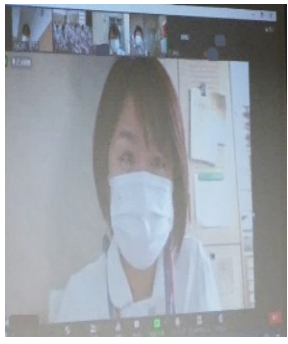
同じような場面で悩んだり、困っていることを共有していました。



全体会では各グループでの学びを共有しました。意思決定支援、患者の思いを捉えた看護、患者との信頼関係の重要性について意見交換が行われました。



助言者から、活発な意見交換ができていたこと、今後自己の課題に取り組む時には部署全体で支援することが話されていました。



部署の看護師長はZoomで全体会に参加しました。

